

日銀神戸
支店長の
視点

竜田博之氏



兵庫県内も気温が下がり、秋本番となってきました。私は、先日、龍野公園と書写山円教寺を訪ねて、紅葉を満喫してきました。今後も、時間が許す限り、県内他地域での紅葉も楽しみたいと思っています。

さて、今月初めには、全国各地の手形交換所で行った手形等の交換が、手形等の電子データの送受信を前提とした全国銀行協会運営の電子交換所に移行しました。

私は銀行生活で3回、現在の決済機構局にあたる部署に在籍し、わが国の決済システムの企画・調査にも携わってきました。1997(平成9)年に最初に担当した決済システムが手形交換所であり、当時から、諸外国の小切手の電子化の調査研究もしています。

電子交換所の稼働

たので、電子交換所の稼働は、感慨深いものがありました。

ちなみに、11月2日には、全国で3番目に古い歴史をもつ神戸手形交換所の最終業務に立ち会う機会を頂きました。同交換所は、東京、大阪の交換所が電子データの持ち込みとなる中、参加金融機関の担当者が手形の現物を持ち込み、銀行協会の方が交換尻を計算する伝統的な方法を最後まで継続していましたが、その最後の取りまとめ事務を長年仕事でお世話になった旧知の伊達交換部長がなさっていたことにもご縁を感じました。

日本銀行は、日銀ネットを通じて1日に約200兆円の資金決済を行っています。当店でも、災害時等に同決済を完了させるための業務継続体制の整備と訓練も行っています。今後とも決済システムの安定を通じて当地の経済活動をしっかりと支えていくつもりです。